

## 2011年度史料保存利用問題シンポジウム

【主催】 日本学術会議史学委員会、日本歴史学協会

【後援】 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会

【日時】 平成23年6月25日（土） 13:30～17:30

【場所】 学習院大学 南3号館201教室

### 【開催趣旨】

3月11日に発生した東北関東大震災によって尊い人命や家屋・施設などが失われた。この未曾有の大震災後、文化財の救出活動はどのような状態に置かれているのか、現地において史料救出活動の最前線のリーダーである平川新教授に、報告をお願いする。また、4月に施行された公文書管理法に関連して、地方文書館の課題について磐田市の実例から提起をお願いする。さらに公文書管理の担い手となる専門職（アーキビスト）の認定制度をスタートさせる日本アーカイブズ学会の提案を、原案作成に携わった大友一雄氏に報告をお願いする。

### 【次第】

開会挨拶 木村茂光（東京学芸大学教授・日本学術会議会員）

報告者 平川 新（東北大学教授・宮城資料ネット理事長）

「東北関東大震災と歴史資料の救出」

佐藤喜好（磐田市歴史文書館館長）

「歴史的公文書保存の在り方——静岡県磐田市の場合——」

大友一雄（国文学研究資料館教授）

「日本アーカイブズ学会認定アーキビスト制度について」

閉会挨拶 高埜利彦（学習院大学教授・日本歴史学協会会長・日本学術会議連携会員）